

幼児の社会的適応と攻撃タイプ (3)

越中康治・江村理奈・新見直子・目久田純一・淡野将太・前田健一

Preschoolers' social adjustment and their types of aggression (3)

Koji Etchu, Rina Emura, Naoko Niimi, Junichi Mekuta, Syota Tanno, and Kenichi Maeda

本研究では、幼児の社会的適応と関連する要因の1つとして、幼児が示す攻撃のタイプ（挑発的攻撃、報復的攻撃、制裁としての攻撃）に着目し、幼児が実際に仲間から受ける評価との関連を検討した。保育園の異年齢クラスを対象とした攻撃タイプと社会的適応に関する3回の調査結果を、とりわけ調査時期と評価者及び被評価者の性別による違いに焦点を当てて検討した。結果として、挑発的攻撃及び報復的攻撃を示すことが、男児の同性仲間集団における不適応の一因となっている可能性が示唆された。他方、女児においては、挑発的攻撃及び報復的攻撃を示すことと社会的適応との関連は男児ほど明確ではなかった。女児は、仲間を評価する上で、男児ほど挑発的攻撃及び報復的攻撃をネガティブに評価しなかった。また、制裁としての攻撃は、評価者及び被評価者の性別にかかわらず、総じて、仲間からのポジティブな評価と関連した。攻撃性と社会的適応との関連は、攻撃性の質的相違、評価者及び被評価者の性別によって異なることが示された。

キーワード：攻撃タイプ、社会的適応、幼児

問題と目的

従来、子どもの社会的適応状態に関しては、ソシオメトリック地位や仲間集団における人気度を指標として研究が進められてきた。本邦においても、社会的適応状態と攻撃性や社会的スキルなどの行動的側面（前田・片岡, 1993）及び孤独感などの認知・感情的側面（前田, 1995）との関連が明らかにされており、既に一定の研究成果が蓄積されている。仲間から拒否される原因となる不適応過程を明らかにしようとした研究においては、特に、子どもが示す攻撃行動が注目を集めてきた。そして、多くの研究から、攻撃行動を示すことが、仲間から拒否される原因の1つであることが明らかにされている（e.g., Coie & Kupersmidt, 1983; Dodge, 1983）。また、攻撃性は、引っ込み思案や社交性以上に、ソシオメトリック地位に強い影響を及ぼすことが指摘されている（Newcomb, Bukowski, & Pattee, 1993）。

しかしながら、前田・片岡（1993）は、幼児を対象とした研究において、仲間から積極的に好かれている幼児の中にも攻撃性を示す者が含まれている可能性を示唆し、攻撃性の質的相違に注目し

ていく必要性を指摘している。そもそも、児童を対象とした研究においては、Lesser (1959) が、挑発的攻撃（自ら仕掛ける攻撃）を示す児童は仲間から拒否されるが、報復的攻撃（仕返しのための攻撃）を示す児童はむしろ仲間から受容されることを指摘している。しかしながら、その後の研究においては、攻撃性の質的相違については積極的な検討がなされておらず、特に、幼児期における社会的適応と攻撃の質との関連は明らかにされてこなかった。

こうした問題を踏まえ、越中 (2005) は、幼稚園の年中児及び年長児を対象として、攻撃タイプと仲間評価との関連を実験的に検討している。挑発的攻撃及び報復的攻撃に、制裁としての攻撃（直接被害を受けていない第三者が、不当なことをした人に対して加える攻撃）を加えて、場面想定法を用いた実験を行い、各タイプの攻撃行動を示した人物を、幼児がどの程度受容できると判断するかを比較検討した。結果として、幼児は、挑発的攻撃を示した人物を明らかに拒否する一方で、報復的攻撃及び制裁としての攻撃を示した人物をある程度受容する傾向にあった。攻撃性の質的相違によって仲間からの評価が異なる可能性が示唆された。

また、越中他 (越中・目久田, 2005; 越中・中村・前田, 2003; 越中・滝下・前田, 2005) は、保育園の異年齢集団における幼児の社会的適応と関連する諸要因についての一連の研究の中で、幼児が示す攻撃タイプ（挑発的攻撃、報復的攻撃、制裁としての攻撃）と幼児が実際に仲間から受ける評価との関連を実証的に検討している。予備的な検討 (越中他, 2003) を経て、越中他 (2005) では、挑発的攻撃が仲間から拒否されることと関連する一方で、報復的攻撃は必ずしも仲間からの拒否と関連せず、制裁としての攻撃はむしろ仲間からの受容と関連する傾向が見出されている。さらに、越中・目久田 (2005) では、半年をおいた2回の調査結果の分析から、挑発的攻撃の増大が仲間からの拒否の増大と対応する一方で、制裁としての攻撃の増大は仲間からの好意の増大と対応する可能性が示唆されている。一連の研究から、攻撃性も、タイプによっては必ずしも仲間からの拒否と関連せず、むしろ仲間から積極的に受容されることと関連する場合もあることが実証されたといえる。

他方、一連の研究においては、攻撃タイプと社会的適応との関連が常に一様ではない可能性も示唆されている。すなわち、攻撃タイプと社会的適応との関連が、調査時期や評価者及び被評価者の性別によって、さらには、被評価者の月齢や社会的行動特徴などの他の個人要因によって異なる可能性も示唆されている。ただし、これまでの報告 (越中・目久田, 2005; 越中他, 2003, 2005) においては、これらの可能性について十分な検討がなされていない。そこで、本研究では、一連の研究において得られたデータのうち未報告であったものも含めて、攻撃タイプと社会的適応との関連についてより詳細な検討を行うことを目的とする。特に、本研究では、攻撃タイプと社会的適応との関連について、とりわけ調査時期と評価者及び被評価者の性別による違いに焦点を当てて検討を行う。

方法

参加者及び調査時期

第1著者が保育士として勤務する東広島市内の保育園の異年齢クラスに所属する幼児を対象として、2004年3月、6月及び9月の3回、同一内容の調査を実施した。なお、6月を除く、3月と9

月のデータの一部は、越中・目久田（2005）及び越中他（2005）において報告されている。クラスの人数は、3月では男児13名、女児14名であった。その後、男児1名、女児3名が卒園・転出し、男児1名、女児1名が入園・転入した結果、6月では男児13名、女児12名となった。その後、男児1名が転出、男児1名が転入した結果、9月では男児13名、女児12名となった。各調査時期における平均月齢（月齢範囲）は、3月では男児60ヶ月（50-70ヶ月）、女児57ヶ月（49-72ヶ月）、6月では男児62ヶ月（53-73ヶ月）、女児60ヶ月（52-73ヶ月）、9月では男児64ヶ月（56-76ヶ月）、女児63ヶ月（55-76ヶ月）であった。なお、対象とした保育園は2003年4月に新規開園した保育園であり、2004年3月時点で、参加者の多くは同クラスにおいて約1年間の集団生活を経験していたこととなる。

手続き

上記の参加者に対して、(1)「写真ソシオメトリック指名法」、(2)「攻撃タイプに関する仲間アセスメント」、(3)「社会的行動特徴（社会的コンピタンス及び引込み思案）に関する仲間アセスメント」（前田・片岡, 1993）及び(4)「絵画語い発達検査」（上野・撫尾・飯長, 1991）を個別面接で実施した。2004年3月、6月及び9月の3回、同一内容の調査を実施した。なお、本研究では、攻撃タイプと社会的適応との関連に焦点を当てて検討を行うため、(1)「写真ソシオメトリック指名法」及び(2)「攻撃タイプに関する仲間アセスメント」の結果のみを用いている。それ故、以下では、(3)「社会的行動特徴に関する仲間アセスメント」及び(4)「絵画語い発達検査」については、記述を割愛し、(1)「写真ソシオメトリック指名法」及び(2)「攻撃タイプに関する仲間アセスメント」について説明を行う。

(1) **写真ソシオメトリック指名法** 前田・片岡（1993）及び中台・金山・前田（2002）に従って、写真ソシオメトリック指名法を実施した。同性の仲間に関する指名と、異性の仲間に関する指名を、それぞれ分けて行った。各性別の仲間全員の写真カードを机上に配列し、名前を確認させた後、肯定的指名（一緒に遊びたい子は誰ですか）及び否定的指名（一緒に遊びたくない子は誰ですか）をそれぞれ上位3名まで求めた。

なお、前田（1998）は、否定的指名が実施後の仲間関係に有害な影響を及ぼさないとしながらも、実施に際しては、倫理的・道徳的問題を十分に考慮することの必要性を指摘している。本研究においても、実施に際して、前田（1998）に従い、可能な限りの配慮を行った。なお、実施後も、第1著者が担任保育士として、幼児の様子に細心の注意を払ったが、幼児の仲間関係等にトラブルは生じなかったことを付け加えておく。

(2) **攻撃タイプに関する仲間アセスメント** 攻撃タイプに関する仲間アセスメント（越中・目久田, 2005; 越中他, 2005）を実施した。同性の仲間に関する指名と、異性の仲間に関する指名を、それぞれ分けて行った。挑発的攻撃（「何も悪いことをしていないお友達に意地悪する子」「自分の思い通りにならないと、すぐに怒る子」「お友達がおもちゃを貸してくれないときに、怒って勝手に取る子」）、報復的攻撃（「お友達に意地悪されたときに、『やめて』と怒る子」「お友達に嫌なことをされたときにやり返す子」「お友達におもちゃを取られたときに、怒って取り返す子」）、制裁としての攻撃（「他の子に意地悪するお友達がいたときに、『ダメ』と怒る子」「悪いことをしたお友達のこと

を怒る子」「友達のおもちゃを勝手に取る人がいたとき、『ダメ』と怒る子)の各3項目について、該当すると思う仲間をそれぞれ上位3名まで指名するよう求めた。

得点化の方法

得点化は以下の通り、越中・目久田(2005)及び越中他(2005)と同様に実施した。

(1) 写真ソシオメトリック指名法 得点化は、同性からの評価と異性からの評価とに分けて行った。前田・片岡(1993)及び中台他(2002)を参考にして、まず、参加者ごとに仲間から受けた肯定的指名数と否定的指名数をそれぞれ集計した。その後、同性からの評価に関しては、参加者が受けた指名数を、本人を除く同性仲間数で除算した。異性からの評価に関しては、参加者が受けた指名数を、異性仲間数で除算した。このようにして、各参加者について、同性及び異性の仲間一人あたりから受けた指名数を算出し、それぞれ肯定的指名得点、否定的指名得点とした。さらに、この2つの得点から、影響性得点(肯定的指名数+否定的指名数)及び好意性得点(肯定的指名数-否定的指名数)を算出した。以下、これら4つの得点を総称して人気度得点と呼ぶことにする。

(2) 攻撃タイプに関する仲間アセスメント 得点化は、同性からの評価と異性からの評価とに分けて行った。まず、参加者ごとに、挑発的攻撃、報復的攻撃、制裁としての攻撃で被指名数を集計した。その後、写真ソシオメトリック指名法の得点化と同様に、同性及び異性の仲間一人あたりから受けた指名数を算出し、それぞれ挑発的攻撃得点、報復的攻撃得点、制裁としての攻撃得点とした。同性による評価と異性による評価それぞれについて、男女込みでCronbachの α 係数を算出し、内的一貫性を検討したところ、同性からの評価においては、挑発的攻撃で $\alpha=.84$ (3月)、 $\alpha=.81$ (6月)、 $\alpha=.83$ (9月)、報復的攻撃で $\alpha=.67$ (3月)、 $\alpha=.75$ (6月)、 $\alpha=.86$ (9月)、制裁としての攻撃で $\alpha=.62$ (3月)、 $\alpha=.71$ (6月)、 $\alpha=.75$ (9月)であった。異性からの評価においては、挑発的攻撃で $\alpha=.81$ (3月)、 $\alpha=.65$ (6月)、 $\alpha=.60$ (9月)、報復的攻撃で $\alpha=.68$ (3月)、 $\alpha=.44$ (6月)、 $\alpha=.43$ (9月)、制裁としての攻撃で $\alpha=.63$ (3月)、 $\alpha=.49$ (6月)、 $\alpha=.82$ (9月)であった。特に異性からの評価について、一部、十分な内的一貫性が確認されていない箇所があるが、調査時期及び評価者と被評価者の性別の組み合わせによる違いについて同じ指標を用いて検討する必要性があることから、分析においては、これらの得点をそのまま用いることとした。各攻撃得点は、点数が高いほど、それぞれの攻撃行動を示すことが多いと評価されていることを意味する。

結 果

同性による評価

全参加者の同性による評価に関して、攻撃タイプと人気度との関連を検討するためにピアソンの相関係数を算出した(Table 1)。まず、挑発的攻撃得点に関して、3月では、否定的指名得点と正相関($r=.54, p<.01$)、好意性得点と負相関($r=-.44, p<.05$)を示した。6月においては、3月と同様に、否定的指名得点と正相関の有意傾向($r=.39, p<.10$)、好意性得点と負相関($r=-.45, p<.05$)を示し、さらに、肯定的指名得点と負相関($r=-.41, p<.05$)を示した。9月では、有意な相関は認められなかった。次に、報復的攻撃に関しては、6月においてのみ、否定的指名得点と正相関の有意傾向($r=.38, p<.10$)、好意性得点と負相関の有意傾向($r=-.38, p<.10$)が認められた。最後に、制裁としての攻

撃に関しては、9月においてのみ、好意性得点と正相関 ($r=.41, p<.05$)、肯定的指名得点と正相関の有意傾向 ($r=.39, p<.10$)、否定的指名得点と負相関の有意傾向 ($r=-.36, p<.10$) を示した。

Table 1 攻撃タイプと仲間からの人気度との相関係数 (同性による評価)

	挑発的攻撃			報復的攻撃			制裁としての攻撃		
	3月	6月	9月	3月	6月	9月	3月	6月	9月
肯定的指名得点	-.14	-.41 *	-.23	-.01	-.30	-.26	.25	.11	.39 †
否定的指名得点	.54 **	.39 †	.23	.28	.38 †	.25	.10	-.17	-.36 †
影響性得点	.35	-.07	.05	.24	.05	.04	.29	-.03	-.04
好意性得点	-.44 *	-.45 *	-.24	-.19	-.38 †	-.28	.10	.16	.41 *

注) ** $p<.01$, * $p<.05$, † $p<.10$ (両側検定)

男児の同性による評価に関して、攻撃タイプと人気度との関連を検討するためにピアソンの相関係数を算出した (Table 2)。まず、挑発的攻撃得点に関して、3月では、否定的指名得点と正相関の有意傾向 ($r=.54, p<.10$)、好意性得点と負相関の有意傾向 ($r=-.50, p<.10$) を示した。6月では、肯定的指名得点と負相関 ($r=-.71, p<.01$)、好意性得点と負相関 ($r=-.62, p<.05$) を示した。9月では、否定的指名得点と正相関の有意傾向 ($r=.53, p<.10$)、好意性得点と負相関の有意傾向 ($r=-.51, p<.10$) を示した。次に、報復的攻撃に関して、3月では、有意な相関は認められなかった。6月では、好意性得点と負相関 ($r=-.57, p<.05$)、肯定的指名得点と負相関の有意傾向 ($r=-.55, p<.10$)、否定的指名得点と正相関の有意傾向 ($r=.53, p<.10$) を示した。9月においても、6月と同様に、好意性得点と負相関 ($r=-.69, p<.01$)、肯定的指名得点と負相関の有意傾向 ($r=-.51, p<.10$)、否定的指名得点と正相関 ($r=.78, p<.01$) を示した。最後に、制裁としての攻撃に関しては、9月においてのみ、好意性得点と正相関 ($r=.69, p<.01$)、肯定的指名得点と正相関 ($r=.77, p<.01$)、否定的指名得点と負相関の有意傾向 ($r=-.51, p<.10$) を示した。

Table 2 男児における攻撃タイプと仲間からの人気度との相関係数 (同性による評価)

	挑発的攻撃			報復的攻撃			制裁としての攻撃		
	3月	6月	9月	3月	6月	9月	3月	6月	9月
肯定的指名得点	-.19	-.71 **	-.45	-.21	-.55 †	-.51 †	-.02	-.15	.77 **
否定的指名得点	.54 †	.46	.53 †	.29	.53 †	.78 **	.26	-.20	-.51 †
影響性得点	.29	-.27	.10	.09	.02	.36	.21	-.45	.36
好意性得点	-.50 †	-.62 *	-.51 †	-.34	-.57 *	-.69 **	-.19	.04	.69 **

注) ** $p<.01$, * $p<.05$, † $p<.10$ (両側検定)

女児の同性による評価に関して、攻撃タイプと人気度との関連を検討するためにピアソンの相関係数を算出した (Table 3)。まず、挑発的攻撃得点に関しては、3月においてのみ、否定的指名得点と正相関 ($r=.56, p<.05$) を示した。次に、報復的攻撃に関しては、いずれの調査時期においても有意な相関は認められなかった。最後に、制裁としての攻撃得点に関しては、3月においてのみ、

肯定的指名得点と正相関 ($r = .63, p < .05$) を示した。

Table 3 女兒における攻撃タイプと仲間からの人気度との相関係数 (同性による評価)

	挑発的攻撃			報復的攻撃			制裁としての攻撃		
	3月	6月	9月	3月	6月	9月	3月	6月	9月
肯定的指名得点	-.09	.06	-.11	.20	-.06	-.14	.63 *	.34	.13
否定的指名得点	.56 *	.02	.04	.30	-.03	-.07	-.09	-.34	-.39
影響性得点	.42	.10	-.05	.43	-.09	-.22	.45	.19	-.38
好意性得点	-.41	.04	-.08	-.07	-.04	-.03	.43	.38	.30

注) * $p < .05$ (両側検定)

異性による評価

全参加者の異性による評価に関して、攻撃タイプと人気度との関連を検討するためにピアソンの相関係数を算出した (Table 4)。まず、挑発的攻撃得点に関して、3月では、否定的指名得点と正相関 ($r = .61, p < .01$)、好意性得点と負相関 ($r = -.49, p < .01$) を示した。6月においては、否定的指名得点と正相関の有意傾向 ($r = .36, p < .10$) を示した。9月では、有意な相関は認められなかった。次に、報復的攻撃に関して、3月では、影響性得点と正相関の有意傾向 ($r = .38, p < .10$) を示した。6月では、影響性得点と正相関 ($r = .62, p < .01$)、肯定的指名得点と正相関の有意傾向 ($r = .36, p < .10$) を示した。9月では、影響性得点と正相関 ($r = .54, p < .01$) を示した。最後に、制裁としての攻撃に関して、3月では、有意な相関は認められなかった。6月では、好意性得点と正相関の有意傾向 ($r = .37, p < .10$) を示した。9月では、影響性得点と正相関 ($r = .54, p < .01$) を示した。

Table 4 攻撃タイプと仲間からの人気度との相関係数 (異性による評価)

	挑発的攻撃			報復的攻撃			制裁としての攻撃		
	3月	6月	9月	3月	6月	9月	3月	6月	9月
肯定的指名得点	-.24	-.01	-.03	.11	.36 †	.21	.04	.33	.28
否定的指名得点	.61 **	.36 †	.31	.31	.31	.34	.19	-.29	.26
影響性得点	.29	.31	.22	.38 †	.62 **	.54 **	.20	.04	.54 **
好意性得点	-.49 **	-.21	-.17	-.11	.05	-.03	-.09	.37 †	.06

注) ** $p < .01$, † $p < .10$ (両側検定)

男児の異性による評価に関して、攻撃タイプと人気度との関連を検討するためにピアソンの相関係数を算出した (Table 5)。まず、挑発的攻撃得点に関しては、3月においてのみ、否定的指名得点と正相関 ($r = .72, p < .01$)、影響性得点と正相関 ($r = .56, p < .05$) を示した。次に、報復的攻撃に関して、3月では、影響性得点と正相関 ($r = .61, p < .05$) を示した。6月では、影響性得点と正相関 ($r = .71, p < .01$)、肯定的指名得点と正相関 ($r = .57, p < .05$) を示した。9月では、影響性得点と正相関 ($r = .57, p < .05$) を示した。最後に、制裁としての攻撃に関して、3月では、有意な相関は認められなかった。6月では、肯定的指名得点と正相関の有意傾向 ($r = .53, p < .10$)、影響性得点と正相関の有意傾向

($r = .50, p < .10$) を示した。9月では、影響性得点と正相関 ($r = .67, p < .05$) を示した。

Table 5 男児における攻撃タイプと仲間からの人気度との相関係数 (異性による評価)

	挑発的攻撃			報復的攻撃			制裁としての攻撃		
	3月	6月	9月	3月	6月	9月	3月	6月	9月
肯定的指名得点	-.06	.23	.07	.35	.57 *	.17	.01	.53 †	.21
否定的指名得点	.72 **	.18	.25	.33	.16	.41	.47	-.07	.47
影響性得点	.56 *	.38	.30	.61 *	.71 **	.57 *	.42	.50 †	.67 *
好意性得点	-.45	.08	-.08	.03	.32	-.10	-.27	.41	-.11

注) ** $p < .01$, * $p < .05$, † $p < .10$ (両側検定)

女兒の異性による評価に関して、攻撃タイプと人気度との関連を検討するためにピアソンの相関係数を算出した (Table 6)。まず、挑発的攻撃得点に関して、3月では、好意性得点と負相関 ($r = -.61, p < .05$)、肯定的指名得点と負相関の有意傾向 ($r = -.52, p < .10$)、否定的指名得点と正相関 ($r = .54, p < .05$) を示した。6月では、好意性得点と負相関の有意傾向 ($r = -.56, p < .10$)、否定的指名得点と正相関の有意傾向 ($r = .54, p < .10$) を示した。9月では、有意な相関は認められなかった。次に、報復的攻撃に関して、3月では、有意な相関は認められなかった。6月では、否定的指名得点と正相関 ($r = .65, p < .05$)、影響性得点と正相関の有意傾向 ($r = .54, p < .10$)、好意性得点と負相関の有意傾向 ($r = -.57, p < .10$) を示した。9月では、影響性得点と正相関の有意傾向 ($r = .53, p < .10$) を示した。最後に、制裁としての攻撃に関しては、いずれの調査時期においても有意な相関は認められなかった。

Table 6 女兒における攻撃タイプと仲間からの人気度との相関係数 (異性による評価)

	挑発的攻撃			報復的攻撃			制裁としての攻撃		
	3月	6月	9月	3月	6月	9月	3月	6月	9月
肯定的指名得点	-.52 †	-.42	-.18	-.19	-.26	.26	.03	.06	.38
否定的指名得点	.54 *	.54 †	.40	.39	.65 *	.26	.04	-.47	-.02
影響性得点	-.03	.28	.12	.15	.54 †	.53 †	.05	-.48	.43
好意性得点	-.61 *	-.56 †	-.29	-.33	-.57 †	.06	.00	.36	.27

注) * $p < .05$, † $p < .10$ (両側検定)

考 察

本研究では、幼児の社会的適応と関連する要因の1つとして、幼児が示す攻撃のタイプ (挑発的攻撃、報復的攻撃、制裁としての攻撃) に着目し、幼児が実際に仲間から受ける評価との関連を検討した。保育園の異年齢クラスを対象とした攻撃タイプと社会的適応に関する3回の調査結果を、とりわけ調査時期と評価者及び被評価者の性別による違いに焦点を当てて検討した。本研究の結果から、各攻撃タイプと仲間からの人気度との関連について、以下のことが示された。

挑発的攻撃は、全体として、評価者及び被評価者の性別にかかわらず、仲間からの拒否 (否定的

指名)と関連することが示された。両者の関連が強く認められたのは、被評価者が男児である場合であった。特に、被評価者が男児である場合の同性(男児)による評価においては、3月から9月にかけて、一貫して、挑発的攻撃の高さが仲間から受ける好意の低さと対応していた。ただし、評価者が女児である場合に関しては、被評価者の性別が男児であるか女児であるかにかかわらず、3月を除いては、挑発的攻撃と仲間からの人気度との関連は示されなかった。これらの結果を踏まえると、とりわけ男児に関しては、挑発的攻撃を示すことが社会的不適応の一因となっているといえる。また、女児は、男児に比して、仲間を評価する上で、仲間が挑発的攻撃を示すか否かを考慮していない可能性が示唆される。

報復的攻撃は、評価者及び被評価者の性別によって、社会的適応との関連が異なることが示された。被評価者が男児である場合の同性による評価において、報復的攻撃は、6月及び9月で、仲間からの拒否(否定的指名)の多さ及び受容(肯定的指名)の少なさと、すなわち仲間から受ける好意の低さと関連していた。他方、男児の異性(女児)による評価において、報復的攻撃は、一貫して、仲間集団における影響性の強さと関連を示してはいたものの、ネガティブな評価とは関連せず、むしろ、6月においては仲間からの受容(肯定的指名)の多さと対応していた。また、被評価者が女児である場合に関しても、報復的攻撃と社会的適応との関連は、評価者の性別によって異なっていた。同性(女児)による評価においては、仲間からの人気度と関連を示さなかったのに対して、異性(男児)による評価においては、6月及び9月で仲間集団における影響性の強さと関連を示し、とりわけ6月においては仲間からの拒否(否定的指名)の多さ及び仲間から受ける好意の少なさと関連を示した。これらの結果を踏まえると、仲間を評価する上で、男児は、報復的攻撃を示す者を性別によらずネガティブに評価するのに対して、女児は、必ずしもネガティブには評価せず、むしろ異性(男児)が報復的攻撃を示すことをポジティブに評価している可能性が示唆される。

制裁としての攻撃は、挑発的攻撃及び報復的攻撃とは異なり、仲間からのネガティブな評価と関連せず、むしろポジティブな評価と関連していた。男児の同性による評価では、9月において、仲間からの受容(肯定的指名)の多さ及び拒否(否定的指名)の少なさと、すなわち仲間から受ける好意の高さと関連していた。男児の異性による評価では、6月及び9月において、仲間集団における影響性の強さと関連を示し、特に6月では、仲間からの受容(肯定的指名)の多さと関連していた。また、女児に関して、異性による評価では仲間からの人気度との関連は示されなかったが、同性による評価では、3月において、仲間からの受容(肯定的指名)の多さとの関連が示された。これらの結果を踏まえると、制裁としての攻撃は、評価者及び被評価者の性別にかかわらず、総じて、仲間からのポジティブな評価と関連しているといえる。

以上、本稿では、攻撃タイプと社会的適応との関連に限定して検討を行ったが、今後は、攻撃タイプと社会的適応の関連だけでなく、社会的行動特徴などの他の個人要因との関連について検討を行う必要がある。

引用文献

Coie, J. D., & Kupersmidt, J. B. (1983). A behavioral analysis of emerging social status in boys' groups.

Child Development, **54**, 1400-1416.

Dodge, K. A. (1983). Behavioral antecedents of peer social status. *Child Development*, **54**, 1386-1399.

越中康治 (2005). 仮想場面における挑発, 報復, 制裁としての攻撃に対する幼児の道徳的判断 教育心理学研究, **53**, 479-490.

越中康治・目久田純一 (2005). 幼児の社会的適応と攻撃タイプ (2) 広島大学大学院教育学研究科紀要 第三部 (教育人間科学関連領域), **54**, 289-296.

越中康治・中村多見・前田健一 (2003). 異年齢集団における幼児の社会的適応一月齢, 語彙, 社会的行動特徴, 攻撃タイプ— 広島大学心理学研究, **3**, 137-145.

越中康治・滝下雅子・前田健一 (2005). 幼児の社会的適応と攻撃タイプ (1) 広島大学大学院教育学研究科紀要 第三部 (教育人間科学関連領域), **54**, 281-288.

Lesser, G. S. (1959). The relationship between various forms of aggression and popularity among lower-class children. *Journal of Educational Psychology*, **50**, 20-25.

前田健一 (1995). 仲間から拒否される子どもの孤独感と社会的行動特徴に関する短期縦断的研究 教育心理学研究, **43**, 256-265.

前田健一 (1998). 子どもの孤独感と行動特徴の変化に関する縦断的研究—ソシオメトリック地位維持群と地位変動群の比較— 教育心理学研究, **46**, 377-386.

前田健一・片岡美菜子 (1993). 幼児の社会的地位と社会的行動特徴に関する仲間・実習生・教師アセスメント 教育心理学研究, **41**, 152-160.

中台佐喜子・金山元春・前田健一 (2002). 幼児の仲間集団における人気度と社会的スキル—同性仲間と異性仲間からの評価— 広島大学心理学研究, **2**, 151-157.

Newcomb, A. F., Bukowski, W. M., & Pattee, L. (1993). Children's peer relations: A meta-analytic review of popular, rejected, neglected controversial, and average sociometric status. *Psychological Bulletin*, **113**, 99-128.

上野一彦・撫尾知信・飯長喜一郎 (1991). 絵画語い発達検査 [1991年修正版] 日本文化科学社

謝 辞

本研究にご協力を賜りました保育園の園長先生, 保育士の皆様ならびに園児の皆様に深く感謝いたします。